

◆科目名： 英米文学演習(3年)A・B

◆曜限： 水曜4限(15:20-17:00)

◆担当者： 石井 透

◆授業の概要・目的： このクラスでは、英語の統語(文法)及び意味について扱います。英語の統語・意味に関しての現象はどのように分析・説明出来るのかということについて、統語論・意味論の基本的な考え方を少しずつ身に付けながら見ていきます。さらに、英語についての理解をより深められるように、英語と日本語との統語・意味の面での比較も扱います。そして、卒業論文の主題へと結びつくようにします。

◆教科書： Kuno, Susumu (1973) *The Structure of the Japanese Language*, MIT Press.

Radford, Andrew (1988) *Transformational Grammar: A First Course*, Cambridge University Press.

Tsujimura, Natsuko (2007) *An Introduction to Japanese Linguistics (2nd Edition)*, Blackwell.

◆授業予定：

英米文学演習(3年)A

1. (4.11) Organization Meeting
2. (4.18) Library Tour
3. (4.25) Clauses (1)
Read: Radford Chapter 6 Sections 6.1-6.3 (pp. 287-295)
4. (5.9) Clauses (2)
Read: Radford Chapter 6 Section 6.4 (pp. 295-303)
5. (5.16) Clauses (3)
Read: Radford Chapter 6 Section 6.5 (pp. 303-313)
6. (5.23) Clauses (4)
Read: Radford Chapter 6 Sections 6.6-6.7 (pp. 313-324)
7. (5.30) Transformations (1)
Read: Radford Chapter 8 Sections 8.1-8.2 (pp. 401-411)
＜宿題1＞
8. (6.6) Transformations (2)
Read: Radford Chapter 8 Section 8.3 (pp. 411-420)
＜小レポート1＞
9. (6.13) Transformations (3)
Read: Radford Chapter 8 Section 8.4 (pp. 420-435)
10. (6.20) Transformations (4)
Read: Radford Chapter 8 Section 8.5-8.6 (pp. 435-448)
＜宿題2＞
11. (6.27) WH Movement (1)
Read: Radford Chapter 9 Sections 9.1-9.4 (pp. 462-480)
＜小レポート2＞
12. (7.4) WH Movement (2)
Read: Radford Chapter 9 Sections 9.7 (pp. 480-492)
13. (7.11) WH Movement (3)
Read: Radford Chapter 9 Sections 9.8-9.9 (pp. 492-499)
14. (7.18) WH Movement (4)
Read: Radford Chapter 9 Sections 9.10-11 (pp. 499-515)
＜宿題3＞

英米文学演習(3年)B

1. (9.26) Syntactic Constituency, Phrase Structures, Phrase Structure Rules, The Notion of Head, Subcategorization, Structural Relations
Read: Tsujimura Chapter 5 Sections 1.1-1.6 (pp. 207-224)
＜小レポート3＞
2. (10.3) Yes-No Questions, WH-Movement, Scrambling Phenomenon
Read: Tsujimura Chapter 5 Sections 2.1-3.1 (pp. 224-231), Kuno 23 (pp. 273-281)

3. (10.10) Configurationality, Evidence for the Movement Analysis
Read: Tsujimura Chapter 5 Sections 3.2-3.3 (pp. 231-248)
4. (10.17) Some Restrictions on Scrambling, Null Anaphora,
Read: Tsujimura Chapter 5 Sections 3.4-5.1 (pp. 248-267)
5. (10.24) Reflexives "Zibun-Zisin", The Notion of Subject, Passives
Read: Tsujimura Chapter 5 Sections 5.2-7 (pp. 267-287)
6. (11.7) Causatives
Read: Tsujimura Chapter 5 Section 8 (pp. 287-301)
＜宿題5＞
7. (11.14) Relative Clauses, Unaccusativity, The Light Verb Construction
Read: Tsujimura Chapter 5 Sections 9-11 (pp. 301-316)
＜小レポート5＞
8. (11.21) Deixis
Read: Tsujimura Chapter 6 Section 1.4 (pp. 349-360)
＜宿題4＞、＜小レポート4＞
9. (11.28) Individual Study
10. (12.5) Individual Study
11. (12.12) Individual Study
12. (12.19) Tense, Aspect
Read: Tsujimura Chapter 6, Sections 2.1-2.2.1 (pp. 364-375)
＜学年末レポート締切＞
13. (1.9) Lexical Aspect
Read: Tsujimura Chapter 6, Section 2.2.2 (p. 375-389)
14. (1.16) Unaccusativity, The Nature of Information, Relevance of Contextual Information
Read: Tsujimura Chapter 6, Sections 3.1-3.2, Section 4.2 (pp. 397-401, pp. 406-415)
15. (1.23) Review

◆**宿題**: テキストの内容についての練習問題を宿題として課します。各自又は2-3人のグループで提出することとします。

◆**小レポート**: テキストの内容を基にして、その問題点やさらに発展できる点などについての課題を出しますので、答えを1-2枚程度にまとめて各自提出して下さい。レポートの内容について他の受講生と話し合うことは奨励しますが、レポートを書く際には各自で書くこととします。

◆**学年度末レポート**: 学年度末の課題として5枚程度のレポートを各自提出することとします。このレポートでは、受講生が各自で言語学に関するトピックを探し、そのトピックについてテキストや文献での分析をまとめその問題点を指摘するものとします。自分なりの新たな提案をするとボーナス点が与えられます。提出の締め切りは冬休み前の最終授業(12月20日)の予定です。冬休み明けに成績とコメント等を付けて返却します。希望者のみ、コメント等に沿って書き直し年度末までに再提出することが出来ます。その場合、再提出後の成績が学年末レポートの最終成績となります。

◆**提出期限**: 宿題及び小レポートの提出期限は授業開始時とします。但し、1年間で3日間の Days of Grace (猶予日)を設けます。宿題及び小レポートの提出期限を年間合わせて3日伸ばせるというものです。3つの提出物の提出期限をそれぞれ1日ずつ伸ばすために使うこともできますし、ひとつの提出物の提出期限を3日遅らせることに使うこともできます。

◆**出席**: 欠席届のある部活動・実習等による欠席を含めて、年間6回以上欠席した受講生には、単位を認定しません。なお病気等やむを得ない理由で長期にわたり欠席する際には、必ず事前に相談して下さい。

◆**遅刻**: 15分以上の遅刻(15時35分以降の入室)は欠席扱いとします。

◆**成績評価**:

英米文学演習(3年)A

クラスでの発表30%、宿題30%、小レポート30%、出席10%(欠席届なしに1回欠席するごとにマイナス2%)

英米文学演習(3年)B

クラスでの発表20%、宿題15%、小レポート15%、出席10%(欠席届なしに1回欠席するごとにマイナス2%)、学年度末レポート40%